

社会人1年目

南筑後支部 南筑後県土整備事務所 佐藤 了

本文の概要

南筑後県土整備事務所に配属され、経験した多くのことを書きます。

社会人1年目は、新型コロナウイルスの影響により、これまでとは全く違う日々が続きました。入庁式や研修のスケジュールも例年と異なったようで、延期や中止が相次ぎ、仕事の内容がよくわからない状態で自分の席に座っていました。また、新型コロナウイルス蔓延防止対策として在宅勤務が始まり、職場の人数も減ったなか、静かな職場で黙々とよくわからない専門書たちと向き合っていました。不安だらけなスタートでしたが、上司や先輩方がよく面倒を見て下さったので、どうにか仕事ができていると思います。

5月中旬には緊急事態宣言が解除され、徐々に研修が再開されたことで、今まで何となくやっていたことが、初めて理解できるようになりました。また、研修で同期の仲間と初めて会い、やっと社会人らしいことができた気がしました。

夏になると大牟田市を中心に大雨が降り甚大な被害をもたらしました。各地で土砂崩れが起き、南筑後県土管内も数か所の道路を通行止めしなければならなかったため、現場作業に動員されました。とにかく規制箇所一般の人や車を近づかせないため、大雨のなか必死に誘導灯を振り続けました。大雨による災害関係の仕事については、先輩方が災害の仕事と通常業務を平気な様子でこなしており、新採の自分には大した仕事なかったのですが、先輩方は凄いなと思いました。

秋になると半年が過ぎ、何本か工事をいただけるようになりました。工事が始まると施工業者さんに言われていることが全く理解できず、会話もままなりませんでしたが、しかし、質問すれば一から教えて下さり、現場に行く回数が増えることで、多くの知識が身につきました。また、現場に行くときには、必ず先輩方も同行しアドバイスをくださるので、大きな問題もなく工事を完了することができました。

冬になると大寒波が到来し、めったに雪が積もらないと聞いていた大牟田にも雪が積まりました。雪による交通規制のため雪害待機に動員され、極寒のなか道路や橋に融雪剤を撒きました。また、3月の年度末に差し掛かるにつれ、担当している工事箇所も増え、今までは舗装工事のみだったのが、道路改良工事や設計業務委託をさせていただけるようになりました。わからないことだらけで、土木の難しさを痛感していますが、入庁したころよりは確実に成長していると実感しています。

2年目、3年目の先輩方を見ると、自分も先輩方のように働けるか不安になりますが、自分が担当している仕事に真剣に取り組み、さらなる成長を遂げたいです。